

ともに考える、沖縄の米軍基地の話 ①



●なぜ沖縄に米軍基地ができたのか

沖縄は、太平洋戦争において、熾烈な地上戦が行われ、「鉄の暴風」と呼ばれたほどのすさまじい爆弾投下と砲撃により、県民の4人に1人が命を奪われ、緑豊かな島々は焦土と化しました。

沖縄に上陸した米軍は、住民を収容所に強制隔離し、土地を接收し、次々と新しい基地を建設していきました。

太平洋戦争終結後も、朝鮮戦争の勃発などに伴い新しい基地が必要になると、武装兵による「銃剣とブルドーザー」で住民を追い出し、家を壊し、田畑をつぶして、新たな基地を造っていきました。

沖縄には、このようにして広大な米軍基地が造られ、本土復帰後も、沖縄の多くの米軍基地が日米安保条約に基づく提供施設・区域として引き継がれました。

●沖縄にはどれだけの米軍基地があるのか

本土復帰当時、沖縄にある米軍専用施設面積の全国に占める割合は、約58.7%でしたが、本土では、基地の整理縮小が沖縄よりも進んだ結果、現在では、国土面積の約0.6%しかない沖縄に約70.3%が集中しています。

沖縄県には、31の米軍専用施設があり、その総面積は約1万8,453ヘクタールで、本県の総面積の約8%、沖縄本島ではその面積の約15%を占めています。

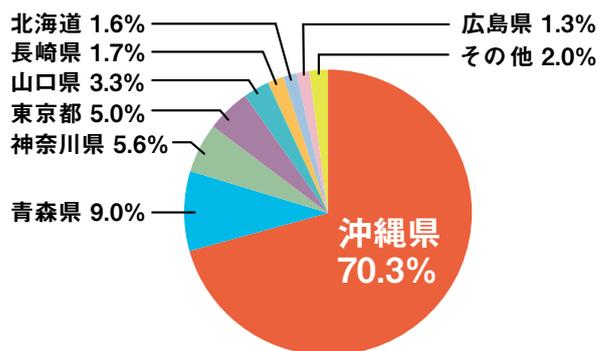
特に、本島中南部都市圏には、県民の8割以上が暮らしていますが、市町村を分断する形で約6,562ヘクタールもの米軍基地が存在しています。

このような米軍基地の存在は、望ましい都市形成、交通体系の構築、産業の集積などの地域振興を実現していくうえで大きな障害となっています。

米軍専用施設面積の割合の推移（復帰後）



米軍専用施設面積の割合



詳しくは、基地対策課ホームページの「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q&A Book」をご確認ください。



問い合わせ

基地対策課

電話：098-866-2460

FAX：098-869-8979

広告



公立学校臨任教職員・非常勤講師

令和6年度の登録はこちらから▶

